

□ は じ め に □

『МОЙ СОСЕД РОССИЯ（私の隣人ロシア）』は、ロシア語を学習する皆さんが、ロシア語という言葉だけではなく、ロシアという国に関心を持ってもらうことを願って編集した国際理解教材です。

教科書『テレモーク』の話に出てきた話題を中心に、ロシアの地理から、料理やスポーツ、お土産品に至るまで、4分野16項目に分けて執筆しています。

外国語を習得するためには、言語の勉強だけではなく、その背景にある文化を知ることが不可欠です。

皆さんが、この教材を通じて、ロシア語を言語としてだけではなく、ロシアという国自体に関心を持って学習してもらうことを祈っています。

著 者

□ 目 次 □

I ロシアの地理・歴史・経済・教育

- 1 地理・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3
- 2 歴史・・・・・・・・・・・・・・・・ P 8
- 3 経済・物価・・・・・・・・・・・・ P 14
- 4 製品・・・・・・・・・・・・・・・・ P 17
- 5 教育制度・・・・・・・・・・・・ P 21

II ロシアの生活

- 6 住居・・・・・・・・・・・・・・・・ P 24
- 7 料理・・・・・・・・・・・・・・・・ P 26
- 8 祝日・・・・・・・・・・・・・・ P 34
- 9 休暇とダーチャ・・・・・・・・ P 36
- 10 子どもの遊び・・・・・・・・ P 38

III ロシアの文化・スポーツ

- 11 舞台芸術の夜明け・・・・・・・・ P 44
- 12 スポーツ・・・・・・・・・・・・ P 47

IV ロシアのあれこれ

- 13 名前・・・・・・・・・・・・・・ P 51
- 14 家族・・・・・・・・・・・・・・ P 55
- 15 土産品・・・・・・・・・・・・ P 59
- 16 言葉のエチケット・・・・・・・・ P 63

1 地理

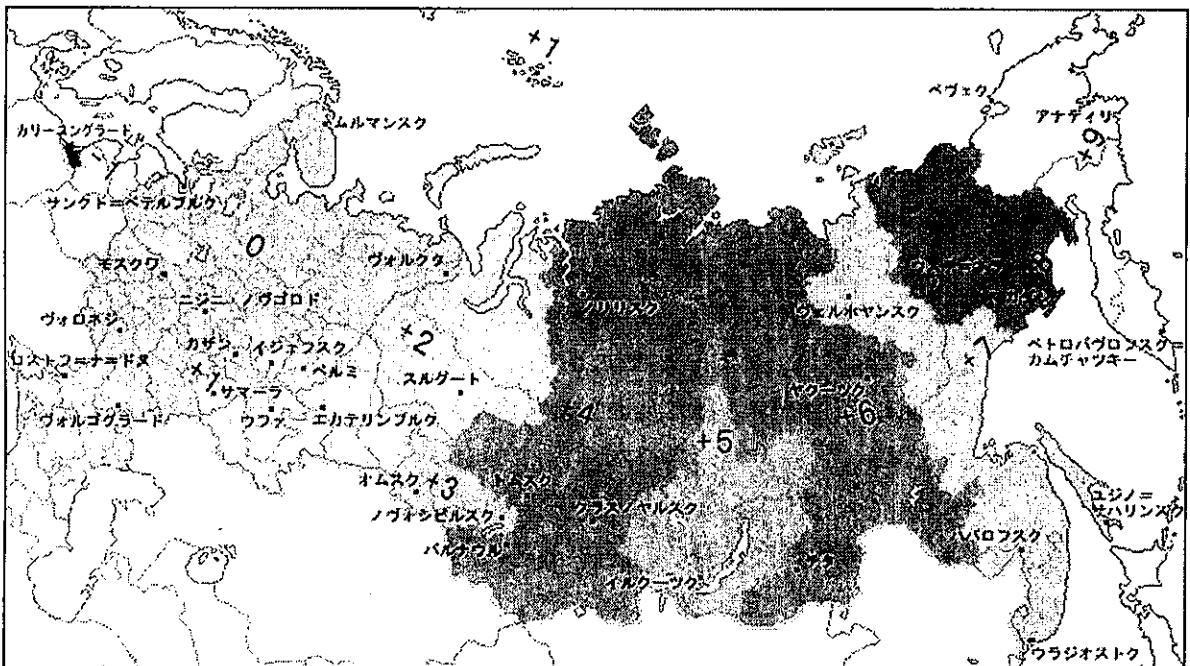
1. 巨大な国・ロシア

ロシアは世界最大の面積を誇る広大な国です。いったいどれくらい広いのかわかりますか。

外務省の発表によるデータによると、その国土の広さは約 1,707 万平方キロメートル。これは日本の国土の約 45 倍に当たる広さです。アメリカ合衆国と比べても 2 倍はあるという堂々たる広さ。ヨーロッパの東側からアジアの極東まで至る横長の国土です。

この広大な国土に 142,220,968 人（国家統計局発表の 2007 年 1 月 1 日現在の人口）の人々が暮らしています。人口密度は 1 平方キロメートル当たりおよそ 8 人です。日本の人口密度は、2005 年の国勢調査によるとおよそ 1 平方キロメートル当たり 343 人ですから、随分と広々とした土地に暮らしているのかがわかります。

これだけ横長の広い土地ですから、当然時差があります。ロシア国内には 11 ものタイムゾーンがあります。つまり、一番西の端と一番東の端では 10 時間の時差があるということです。ですから、西の端にあるカーニングラードという街で午前 0 時をむかえる頃、東のカムチャツカ半島ではもう午前 10 時を回るということになるのです。



この巨大な国を東西につなぐ世界一長い鉄道がシベリア鉄道（Транссибирская магистраль）です。厳密に言うと、日本海に面している沿海州のウラジオストクから、ロシア連邦南西部にあるチェリャビンスクという街までの 7,416km をさす鉄道名ですが、一般的には、さらに西側にあるモスクワまでの路線を含めた 9,297km もの長い鉄

道をさします。この長い道のりを走る「ロシア号」はモスクワのヤロスラブリ駅からウラジオストクまで7日間かけて走ります。

この長い距離を走るシベリア鉄道はモスクワ時間で制御されています。モスクワを出る時に午後7時頃日の入りを迎える季節であれば、ウラジオストクに着く頃には真昼に夕焼けを見ることになるのです。

2. ロシアの自然

広いロシアの国土ですが、人の手がほとんど入っていない地域も多くあり、特にウラル山脈の東側からシベリア、極東にかけては自然の宝庫となっています。

その広い国土のおよそ半分は森林で占められています。北緯50度から70度の地域にかけてはタイガと呼ばれる針葉樹林帯が広がっています。シベリアから日本海沿岸部にかけてのタイガ地域は原生林の姿を残し、トラやヒョウなどの大型の肉食獣を頂点とした生態系が維持されています。また、これらの地域の多くは永久凍土と呼ばれる凍った大地に覆われています。南部にはステップと呼ばれる草原が広がっています。また、タイガよりも北部の地域には樹木が生育しないツンドラと呼ばれる平原が広がっています。

ヨーロッパとアジアにまたがるロシアですが、このヨーロッパとアジアの地理的境界線となっているのがウラル山脈(Уральские горы)です。この山脈は南はカスピ海から北は北極海まで2,000kmを超える距離にわたって連なっています。山脈の南側は鉱物資源の埋蔵量が多いことで知られており、石炭・石油・鉄鉱・銅鉱・ニッケルなどが産出されます。ウラル山脈の最高峰は標高1,895mのナロードナヤ(Народная)山です。意外と標高はありません。

しかし、ロシアにはもっともっと高い山がたくさんあります。ロシアで標高3,000mを超える高山は、大カフカス山脈、アルタイ山脈、カムチャツカ半島に多く見られ、特に黒海とカスピ海の間につながる大カフカス山脈には4,000mを超える峰々が数多く存在します。ロシアで最も高い山は大カフカス山脈にあるエリブルース(Эльбрус)山で、標高は5,642mです。

シベリアにはバイカル湖(Озеро Байкал)と呼ばれる神秘的な湖があります。この湖は最大水深1,637mと世界で最も深い湖であり、透明度も世界一を誇ります。また世界で最も古い湖であり、2,500万年以上前から存在しているのです。この湖は最大幅が35kmしかありませんが、600kmにも及ぶ細長い三日月型をしています。水面下が広く広がっているのと、その驚異的な深さのために、体積が世界最大の淡水湖となっており、地球全体の3分の1の自然淡水がこの湖に蓄えられていると言われています。この湖には、ここでしか見られない生物がたくさん棲息しており、1996年にはこの湖とその周辺地域が世界自然遺産に登録されました。

ロシアには大きな川もたくさんあります。ヨーロッパ側には、欧州最長の川であるヴォルガ川(Волга)があります。ここでは大型で質の良いチョウザメが捕れます。またモスクワの南東部から流れ出るドン川(Дон)も重要な河川となっています。さらに、アジア側にもオビ川(Обь)、エニセイ川(Енисей)、レナ川(Лена)、アムール川(Амур)と世界トップクラスの長さを誇る河川があります。

3. ロシアの都市

2007年現在、ロシア国内の100万人を超える都市は11市となりました。

ロシア最大の都市は首都モスクワであり、1,044万人を超える人々が生活しています。2002年に行われた国勢調査では、モスクワの人口は1012万人であり、人口は増加傾向にあります。2位のサンクト=ペテルブルクの人口はおよそ457万人ですから、モスクワが圧倒的な大きさだということがわかります。

モスクワにはロシア連邦の政治の中核であるクレムリン(Кремль)があります。ここにはソ連時代にソビエト連邦共産党の本部が置かれたことから、冷戦時代には、クレムリンはソ連共産党の代名詞となっていました。現在でも、ここには大統領府や大統領官邸が設置されています。クレムリンとはもともと城塞の意味です。内部には様々な様式の寺院や宮殿などの歴史的建造物があり、クレムリンの前に広がる赤の広場とともに1990年に世界文化遺産に登録されました。赤の広場には有名な聖ヴァシリイ寺院も建っています。

ロシア第2位の都市サンクト=ペテルブルクは、18世紀にピョートル大帝によって建設された人工都市です。ソ連時代には革命の立役者レーニンにちなんでレニングラードと呼ばれていました。この街にもエルミタージュ美術館やエカテリーナ宮殿などの歴史的建造物がたくさんあり、この歴史地域も同じく1990年に世界文化遺産に登録されています。また、この街はプーシキンやゴーゴリ、ドストエフスキーなどの文豪の文学作品の舞台として度々登場しています。

ロシアの100万都市(2007年1月1日現在)

都市名	人口	行政区画
モスクワ	10,442,663	モスクワ市(連邦直轄市)
サンクト=ペテルブルク	4,571,184	サンクト=ペテルブルク市(連邦直轄市)
ノヴォシビルスク	1,391,918	ノヴォシビルスク州
エカテリンブルク	1,315,097	スヴェルドロフスク州
ニジニ・ノヴゴロド	1,278,340	ニジニ・ノヴゴロド州
サマーラ	1,138,994	サマーラ州
オムスク	1,134,773	オムスク州

都市名	人口	行政区画
カザン	1,115,993	タタールスタン共和国
チェリャビンスク	1,091,488	チェリャビンスク州
ロストフ=ナ=ドヌ	1,051,630	ロストフ州
ウファ	1,022,575	バシコルトスタン共和国

4. ロシアの地域区分

ロシアの地方自治制度に関しては、周辺国家を吸収して多民族化していった歴史もあり、日本に比べてちょっと複雑です。

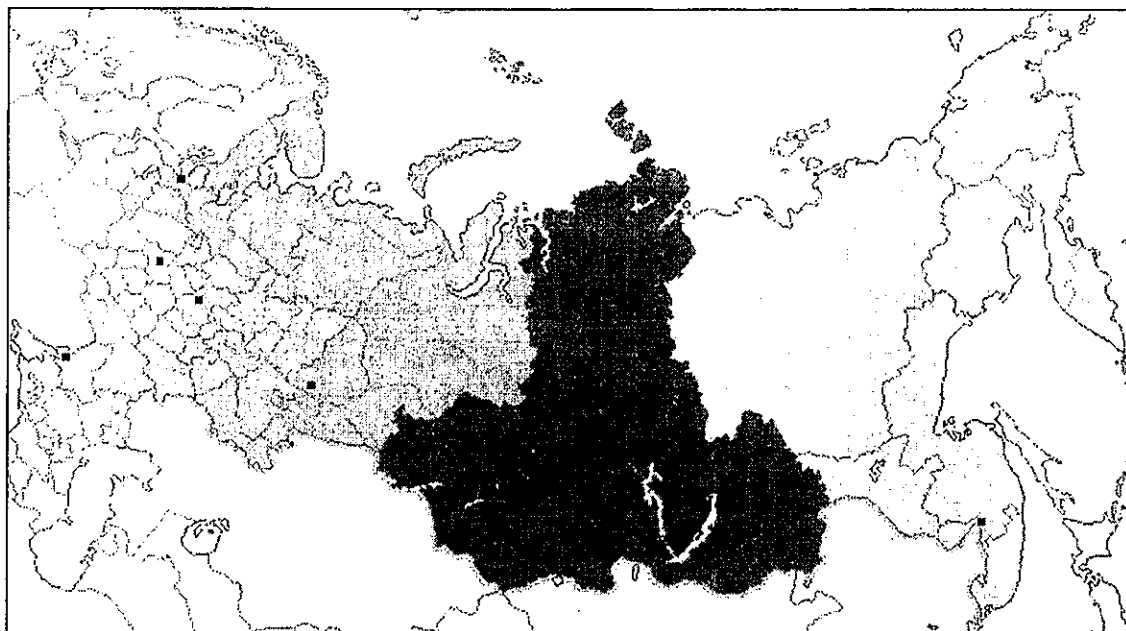
日本は47の都道府県で成り立っています。都・道・府・県という呼び方の違いはありますが、行政のやり方はほぼ同じです。ところがロシアを構成している85の連邦構成体(субъект Федерации)は、共和国(республика)、地方(край)、州(область)、自治州(автономная область)、自治管区(автономный округ)という様々な種類に分かれています。

21ある「共和国」や1つの「自治州」、6つの「自治管区」は西アジアや中央アジア、ウラル山脈沿い、シベリア、極東などに広がっており、主にロシア人以外の民族集団の単位ごとに分かれています。ロシア人が多くを占める地域は47の「州」に分かれており、主にヨーロッパ方面やシベリア鉄道沿線に広がっています。またカムチャツカなどロシア人と他民族が入り交じる主に辺境にある地域を「地方」としており、民族と地域が折り重なった複雑な行政単位を構成しています。「地方」は全部で8つあります。

またモスクワとサンクト=ペテルブルクの2大都市は州に含まれない独立した連邦直轄市となっています。

ロシアにはソ連時代から経済地区という地域区分が存在してきました。しかし、2000年5月に大統領を中心とした中央集権化を図るため、新しい地域区分が設けられました。それがロシア全土を7つに区分する連邦管区です。この連邦管区の創設に伴って、大統領権限の実効性が高められるとともに、国家権力の地方に対する統制・監視が強められました。

7つの連邦管区



連邦管区	中心都市	構成体数	人口
中央	モスクワ	18	37,218,058
北西	サンクト=ペテルブルク	11	13,549,962
南	ロストフ=ナ=ドヌ	13	22,777,247
沿ヴォルガ	ニジニ・ノヴゴロド	14	30,346,168
ウラル	エカテリンブルク	6	12,230,524
シベリア	ノヴォシビルスク	14	19,590,067
極東	ハバロフスク	9	6,508,942

参考WEBページ)

外務省各国・地域情勢：ロシア <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/russia/index.html>

ロシア地理雑学・都市データサイト“ニジェガロツキー・ドヴォール” <http://dvor.jp/>

2 歴史

ロシアの歴史は、キエフ・ルーシ時代(9～13世紀)、モスクワ大公国時代(15世紀～1682年)、帝政ロシア時代(1682～1917)、ソビエト連邦時代(1870～1991)、そして、新生ロシアである現在のロシア連邦の成立までに分けられます。

1. キエフ・ルーシ時代(Киевская Русь)

ロシアの最初の国はキエフ・ルーシであり、古代ルーシとも呼ばれています。9世紀の終わりに、東に住むスラブ民族が集まり、一つの国を造ったのが始まりとされ、国の中心はキエフ(現在のウクライナ)にありました。最も勢力のあった部族(ルス族)は、ローソフやルーソフと呼ばれていたため、これにちなんでキエフのルーシと呼ばれるようになりました。このルーシという言葉から、ロシアやルースキーが生まれたのです。

キエフ・ルーシ時代における重要な出来事の一つに、ウラジーミル公(～1015年)による988年の東ローマ帝国からのキリスト教の受容、いわゆる「ルーシの洗礼」があります。現在のロシア正教(東方正教会)につながるキリスト教化の始まりであり、スラブ語を書き表すキリル文字(ロシア文字)など、多くの文化がもたらされました。

12世紀中頃になり、古代ルーシは分裂し、多くの公国に分裂して弱体化する中で、13世紀の中頃にはタタール・モンゴル帝国の侵略を受け、約250あった全ルーシの公国全てが支配下におかれました。

2. タタールの^{くびき}軛(Татаро-монгольское иго)

タタール・モンゴル帝国(キプチャク・ハーン国)の支配は間接統治でしたが、各公国の統治機構を利用した厳しいものでした。この頃、西ヨーロッパの経済や文化の発展には目覚ましいものがありましたが、独立国家ではなかったロシアは、その恩恵を受けることが出来ませんでした。長いロシアの歴史において、この辛く苦難に満ちた時代は、特に「タタールの軛」と呼ばれています。

3. モスクワ大公国時代(Московское царство)

1380年のクリコーヴォの戦いで、タタール・モンゴル帝国を打ち破った以降、14世紀から15世紀にかけて、モスクワ公国がロシアの多くの公国の中心的な存在となりました。

1367年には、モスクワ大公イワン3世(1440～1505)がクレムリン要塞を造り始め、現在に至っています。今やクレムリンはロシアの政治の中心となり、「ロシアの心臓」と呼ばれる存在になっています。

1547年に最初にツァーリ(皇帝)の称号を正式に用いたのは、リューリク朝のイワン4世(イワン3世の孫。1530～1584)でした。彼は、その厳しく激しい気性からイワン雷帝として後世に名を残しています。東に向かって領土を拡大し続け、ボルガ河畔を制した後、コサックが切り拓いたシベリアをも領有しました。しかし、イワン雷帝の死後、十数

年後にはリューリク朝は断絶し、大動乱の時代となったのです。

ポーランド・ラトビア軍のモスクワ占領があったり、スウェーデンによる侵略がありましたが、ポジャルスキー（1578～1642）とミニーナ（～1616）が率いる10万の国民で編成された帝政ロシア軍（国民軍）により、1612年にはモスクワは解放されました。これを記念して、11月4日は「民族統一の日」（2005年～）として祝日となっています。

4. 帝政ロシア時代(Российская Империя)

コサックの力を借りながらも、国内の動乱時代を終息させたミハイル・ロマノフは、1617年にロマノフ朝を開きました。17世紀の終わりに即位したピョートル1世（1672～1725）の時代になると、帝政ロシアと呼ばれる絶対君主制国家となり、その国境は西ヨーロッパから太平洋まで伸びる広大なものとなりましたが、経済と文化は西ヨーロッパに比べてまだまだ遅れていました。

ヨーロッパの最先進国となることを夢見た、初代皇帝（ツァーリ）となったピョートル1世は、賢明かつ活力にあふれ、背が高く（2m以上）、力強くたくましい君主としてピョートル大帝と呼ばれ、今でも親しまれています。朝早くから夜遅くまで働き続け、睡眠は4時間ほどであったと言われています。彼は、スウェーデンとの戦いに勝利してバルト海沿岸地方を領有した後、西欧への窓口となる新たな首都サンクト=ペテルブルグ（※注1）を建設しました。正式な陸軍と海軍を創設し、ロシアで最初の工場群を建設するなど工業化も推し進め、最初の博物館（※注2）を設置し、新聞を発行しました。新年が祝日となったり、漂流民を教師として日本語学校が創られたのもこの時代でした。

（※注1）サンクト=ペテルブルグ(Санкт-Петербург):

・ロシア第2の都市で人口約470万人。連邦市として現ロシア連邦の構成主体の一つ。ウラジーミル・プーチン大統領の出身地。世界遺産に登録されており、エルミタージュ美術館、冬の宮殿、エカテリーナ宮殿、アレクサンドル・ネフスキー修道院（文豪や芸術家の墓所）、ロシア美術館、血の上の救世主教会（アレクサンドル2世が暗殺された場所に建設された美しい建物）等有名な名所が多く、張り巡らされた運河により、北のベニスとも呼ばれる美しい都市である。

・名前の変遷：1914年～ペトログラードと改称、1924年～レニングラードと改称、1991年～住民投票によりサンクト=ペテルブルグに戻る。愛称で「ピーテル」と呼ばれる。州名はレニングラード州。

（※注2）ネヴァ川河畔にある人類学博物館（クンストカーメラ）:

・ピョートル大帝の収集品を基に11万点以上の収蔵品があり、ロシア科学アカデミーも近い。日本関係の物では、18世紀の漂流民大黒屋光大夫が残してきた浄瑠璃本等の他、最初の露和辞典を編纂した鹿児島船乗りゴンザや商人ソウザの蠟製マスクなどがある。

ピョートル大帝が目指した改革は、エカテリーナ2世（1729～1796）にも引き継がれ、工業化が更に集中的に進められました。彼女もまた、オスマントルコ帝国との数度にわた

る戦争により、黒海沿岸やクリミヤ半島を領有しました。新たな土地に多くの都市を建設するとともに、更なる領土の拡大に突き進んで行きました。

その後、帝政ロシアは、19世紀初めになると露土戦争の結果としてルーマニア領モルドバ（旧ソ連のモルダビア共和国。現モルドバ共和国として独立）を編入し、さらには、コーカサス（カフカス）地方（※後のチェチェン紛争の要因）、ポーランド東部（ポーランド分割による）を領有し、フィンランドやアラスカ（現アメリカ領）を含めた広大な地域を支配する強大な国家となったのです。

この時代はロシア文化の黄金時代と言われ、詩人のプーシキン、作家のドストエフスキー、トルストイやチェーホフ、画家のイワノフ、スリコフやレーピン、作曲家のチャイコフスキー、ムソルグスキーといった偉大な文豪や芸術家達を輩出しています。

19世紀の終わりには、バレエ学校（帝室音楽演劇舞踏学校。現ワガノワ・バレエ・アカデミー）も設立されて、伝統を誇るロシアバレエの基礎が築かれたのです。この頃、科学も大きく進歩し、数学者ロバチェフスキーが新しい幾何学を生みだしたり、科学者メンデレーエフが独自の画期的な元素の周期表を作りました。

しかし、このような華やかさとは対照的に、内部に多くの矛盾を抱えていたのも事実でした。教育や科学は高度に発達する一方、多くの農民や民衆は20世紀初めになっても読み書きができなかったのです。当時ロシアは、世界で最も豊かな国でしたが、貧困に喘ぐ多くの農民や民衆の苦しみや犠牲の上に成り立っていたのです。（※注3）

（※注3）1861年にアレクサンドル2世が「農奴解放令」を發布したが、自由になった農民には、ほとんど土地が与えられず、農奴は小作農化しただけであった。このため、農民が都市へ労働者として流入し、産業革命の進展のきっかけとなった。

帝政ロシアは、日露戦争中に起こった「血の日曜日事件」をきっかけとした労働者のゼネストによる革命を鎮圧する中、1905年には立憲君主制に移行しましたが、民主的な国家とはなりません。20世紀に入ると、サラエボ事件をきっかけに1914年に勃発した第1次世界大戦への参戦による戦時生活により、国民の不満は一層高まり、食糧配給の改善を求めるデモに端を発した2月革命（※注4）が1917年に起こり、ニコライ2世は退位して、304年間続いたロマノフ朝は終焉を迎えました。

その後、ウラジーミル・レーニンらの社会主義者による10月革命、ソビエト政権の樹立宣言などを経て、この社会主義革命に伴う内戦による混乱（ボルシェビキ対メンシェビキほか）が数年間続きました。

（※注4）2月革命：西暦1917年3月8日（国際婦人デーの日）。当時は現在一般的なグレゴリオ暦ではなく、旧暦のユリウス暦を採用していたので、ロシアの暦の上では2月23日となる。

5. ソビエト連邦時代(Советский Союз)

1922年には、初の社会主義国家となる「ソビエト社会主義共和国連邦」(Союз Советских Социалистических Республик 通称：СССР(英語：USSR) 略称：「ソビエト連邦、ソ連」)が成立しました。

その後、第2次世界大戦では、ヒトラーのナチス・ドイツと激しく戦い(1941～1945)勝利し、戦後はアメリカ合衆国と並ぶ大国となりましたが、鉄のカーテンが東西を隔てていると言われた冷戦の時代でした。

このソビエト連邦自体も、やはり帝政ロシア以上に内部に大きな矛盾を抱えました。財産の個人所有は禁止され、土地、工場、店、レストラン、学校や病院など全てのものが国家の所有物でした。教育は無料であり、科学と芸術の発展に大きな力を注ぎ、世界初の原子力発電所が建設されたり、世界初の人工衛星の打ち上げにも成功し、ユーリ・ガガーリン飛行士による世界初の有人宇宙飛行も行われました。

国家権力は、唯一の政党であるソビエト共産党が掌握し、全国民の生活を厳しく統制していました。共産党を批判することは許されず、国外へ出ることは不可能でした。計画経済でしたが、国民生活に必要な物資が次第に不足し、食料や衣服などの日用品を買うために、配給日には長時間行列になって並ぶことが必要なだけでなく、それ以外にも多くの苦勞があり、忍耐の連続でした。個人が自動車を購入することなどは到底不可能でした。しかし、世界で一番多いと言われた軍事費が冷戦下で年々増え続け、1980年代における国家経済は悪化の一途をたどりました。

1985年に就任したソビエト連邦共産党のゴルバチョフ書記長(当時の最高権力者。1931～)は、ペレストロイカ(※注5)と呼ばれる政治体制の改革を行い、新たな経済体制の樹立を目指し、併せて、グラスノスチ(情報公開)により民主的な体制を目指しましたが、民主化への更なる圧力に屈する形で、ソビエト連邦自体を崩壊させることとなりました。

当時ロシアは、輸出の8割以上を石油、天然ガス、金属や木材に依存しており、世界的なデフレの中で物価が下落し、このため外貨収入が減って財政が更に悪化していきました。

特に、原油価格の下落が大きな要因となり、1988年8月にはアジアの通貨危機の余波を受けて経済は一層混乱し、世界経済に大きな影響を与える経済危機に陥りました。その後の混乱により、1991年12月にはソビエト連邦が崩壊し、「ロシア連邦」が誕生することになったのでした。

(※注5) ペレストロイカ(Перестройка)：意味は改革、再構築。英語訳はリストラクチャリングであるが、1980年代後半のイギリスのサッチャー首相やアメリカのレーガン大統領の行財政改革、産業構造の転換政策や民間企業の組織再編成などを指して言う。日本では「リストラ」として使われている。

6. ロシア連邦の成立(Российская Федерация(略称:RF))

ロシア連邦は、成立後最初の数年間、政治的にも経済的にも厳しい状況におかれ、経済危機が全土に広がり、多くの国営工場が閉鎖に追い込まれて、沢山の失業者が生まれました。そして、彼らは、数ヶ月も給料を受け取ることができなかったのです。急激なインフレが国民生活を襲い、ルーブルの価値の下落によるデノミなど大きな混乱を招き、大きな影響を残しました。さらに、悲惨なチェチェン紛争が始まり、多くの若者が戦死するなか、都市を狙った多くのテロ事件も発生し、多くの一般人も犠牲者となりました。

しかしながら、これらの国や国民を取り巻く状況は、改善を見せ始めています。今後、新しく生まれ変わったロシアがどのような運命をたどるのかは分かりません。しかし、民主的な国家として、輝かしい未来へ向かって進んでいくことを多くの国民は望んでいます。

○主なロシア年表(Основные события русской истории)

(西暦)

988年	キエフ・ルーシによるキリスト教の受容
1147年	年代記(ルーシ原初年代記)に初めてモスクワの名が現れる
1237~1238年	タタール・モンゴル帝国のルーシ侵略(タタールの軛)
1367年	モスクワにクレムリン要塞を建設
1552年	カザン・ハン国を征服
1556年	アストラ・ハン国を制服
1609~1618年	ポーランドの干渉(モスクワが占領される)
1612年	ポジャルスキー及びミニナ軍の率いる国民軍がモスクワを解放
1613年2月7~21日	ミハイル・ロマノフがツァーリ(皇帝)に選出(ロマノフ朝)
1649~1652年	ハバーロフのアムール探検
1654年1月8~9日	ウクライナと臣従協定締結
1696年1月29日	ピョートル1世(ピョートル大帝)が即位
1700~1721年	スウェーデンとの北方戦争
1709年6月27日	ポルタヴォの戦いでスウェーデンに勝利
1725年1月28日	ピョートル1世(ピョートル大帝)没
1735~1739年	トルコとの戦争(露土戦争)
1755年1月12日	モスクワ大学設立
1756年8月30日	ペテルブルグに劇場設立(現マリンスキー劇場)
1762年7月6日	エカテリーナ2世即位
1801年1月18日	グルジア王国併合
1812年	ナポレオン軍がロシア侵攻(祖国戦争)
1814年3月19日	ロシア軍がナポレオンを撃退(※冬將軍(厳しい冬:マロース)が味方)

1837年10月30日	ロシア最初の鉄道開通
1855年	日魯通好条約締結
1861年2月19日	農奴解放令
1875年4月25日	日本と千島樺太交換条約締結
1904～1905年	日露戦争
1905年	ポーツマス条約締結
1914年7月19日(8/1)	ドイツに宣戦布告。第1次世界大戦に参戦
1917年2月27日	2月革命、帝政崩壊
1917年10月24,25日	レーニンの指導のもとに10月革命（社会主義革命）
1918～1922年	革命後の内戦による混乱（ボルシェビキ対メンシェビキ）
1922年10月27日	「ソビエト社会主義共和国連邦」（ソビエト連邦）が成立
1939年9月1日	第二次世界大戦勃発（1945年9月2日終結）
1941年6月22日	ヒトラーのドイツとの独ソ戦争開始
1945年5月8日	独ソ戦争勝利（※またも冬将軍（厳しい冬：マロース）が味方）
1949年8月29日	ソビエト連邦が核保有を宣言
1954年6月27日	世界初の原子力発電所建設
1956年12月12日	日ソ共同宣言により国交回復
1957年10月4日	世界初の人工衛星スプートニク号打ち上げ成功
1961年4月26日	ポストーク号でユーリ・ガガーリン人類初の有人宇宙飛行
1979年12月24日	アフガニスタン侵攻
1986年4月26日	チェルノブイリ原発事故（ウクライナ共和国）
1987年6～7月	ペレストロイカ開始
1991年12月8日	ベラルーシ共和国の首都ミンスクで、ロシア、ウクライナ、ベラルーシ（白ロシア）が調印し、ロシア連邦が成立（ソビエト連邦の崩壊）

3 経済・物価

ロシア経済は長らく低迷し、物不足であったことから、以前はよく買い物客の行列がテレビなどで映し出されていたものです。しかし、それは一昔前の事で、市場経済へ移行した現在では、店内に商品が所狭しと並び、買い物客の行列もあまり見られなくなりました。商品は種類も多く、日本製などの輸入品も多く見られます。

1991年にソ連が崩壊した後、ロシアは社会主義体制から資本主義体制に転換し、市場経済を導入しましたが、激しいインフレに見舞われ、ロシア経済は破綻の危機を迎えるなど経済規模は大幅に落ち込みました。しかし、主力輸出産品である石油価格の上昇などから、1999年以降ロシア経済はプラス成長に転じ、引き続き高値を保つ石油価格を背景に、ロシアの経済は急激な成長を遂げています。

インフレ率もやや低下しており、2006年には初めて9%と一桁台となりました。経済成長とともに、給与も年々順調に増えており、これに伴い家庭の消費支出も増加しています。

しかし、経済成長とともに大きな所得の格差が生じており、食生活にも苦勞する低所得層の人々がいる一方、豪邸に住み、高級外車に乗り、余暇には海外旅行を楽しむ富裕層も存在するなど、所得の格差はさらに広がっています。

また、大都市と地方都市の間の格差も大きく、地方都市の方が物価は大幅に安いなど、ロシアの首都であるモスクワと地方都市では、所得や物価の状況は全く異なっています。

モスクワは、米国のコンサルティング会社の調査において、2005年から2年連続して、世界で最も物価の高い都市としてランク付けされました（東京は4位）。

ここで、モスクワの物価などについて紹介します。モスクワでは、昔ながらの野菜や肉などを売る小さな店が並ぶリツク（自由市場）のほか、巨大なショッピングセンターも建ち並び、24時間営業のコンビニエンスストアもあります。

ファーストフード店もあり、「マクドナルド」や「ケンタッキーフライドチキン」も見られます。

ロシアの伝統的な家庭料理に、日本でも馴染みの調理パン「ピロシキ」がありますが、ロシアにはこの「ピロシキ」のファーストフード店があり、人気を呼んでいます。

ショッピングセンターや百貨店などは、平日も休日も、ショッピングを楽しむ人たちがいっぱい、さながら消費ブームといったところです。



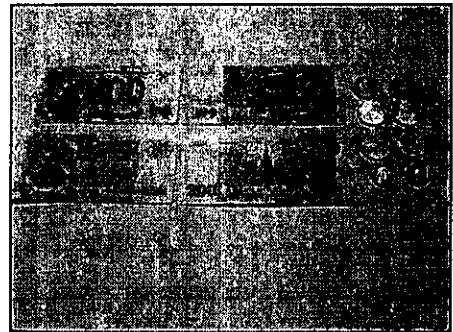
ロシアの通貨単位は「ルーブル」で、補助通貨は「カペイカ」、1ルーブル=100カペイカです（※2006年の為替レート：1ドル=27.14ルーブル=116.3円）。

モスクワの平均月収は、約3万ルーブル（日本円で約13万円）と言われていたますが、副業経営などの収入の実態は把握できないため、実際には、もっと多い収入があるとも言われています。

なお、ロシアの平均月収は約1万5千ルーブル（日本円で約6万5千円）と言われており、モスクワの半分となっています。



ロシアの物価は、インフレにより変動が激しいところですが、次のとおりモスクワの主な品目の価格を参考までに示してみます。



モスクワの主な品目の価格

品目	単位	現地価格 (ルーブル)	円換算価格 (円)	参考：北海道価格 (円)
卵	10個	26~50	130~250	176(M玉)
牛乳	1000ml	23~47	115~235	185
牛肉	100g	24	120	307
豚肉	100g	13~24	65~120	187
鶏肉	1羽(小)	80~100	400~500	108/100g
ハム	100g	7~30	35~150	239
ソーセージ	100g	16~65	80~325	161
マーガリン	—	40~70	200~350	164/225g程度
チーズ	100g	12~60	60~300	218/180g
サラダ油	500cc程度	29	145	418/1,500g程度
オリーブオイル	300cc程度	218	1,090	398/228g
ばれいしょ	100g	1.5~1.6	7.5~8	21.1
トマト	100g	4~5	20~25	59.9

品目	単位	現地価格 (ルーブル)	円換算価格 (円)	参考：北海道価格 (円)
たまねぎ	100g	1.2~2.3	6~11.5	19.4
にんじん	100g	1.2~1.8	6~9	46
キャベツ	100g	1.3	6.5	15
りんご	100g	4~6	20~30	100/1個
さけ	100g	73.5	367.5	106.7
チョウザメ	1kg	1,470	7,350	—
米	1kg	25~30	125~150	356.3(ほしのゆめ)
白パン	1丸	13~20	65~100	154/食パン6枚スライス
ビール	500ml	18~45	90~225	286
ペプシコーラ	2,500ml	35	175	320/1500ml
Sprite	2,500ml	35	175	336/1500ml
ミネラルウォーター	500ml	10~30	50~150	140
アイスクリーム	—	12~30	60~150	105/130g
ガム	—	12~17	60~85	90~126
チョコレート	—	14~200	70~1,000	78~298
歯みがき	—	8~90	40~450	203/170g
洗濯用合成洗剤	—	29~100	145~500	386/1.2kg程度
テレビ	—	7,000~40,000	35,000~200,000	117,000/26インチ液晶
ガソリン	1ℓ	18	90	143(レギュラー)

※1 現地価格は、平成19年9月にモスクワ市内のスーパーマーケット等で行った独自調査結果を掲載。

※2 円換算価格は、1ルーブル=5円として計算。

※3 北海道価格は、北海道環境生活部が実施している、消費生活モニター価格調査結果(19年10月)を使用したほか、独自調査結果(19年10月札幌市内スーパーマーケットにて実施)を掲載。

※4 規格・数量が様々であり、国産品及び輸入品で価格が大幅に異なる品目等については、単価欄は未表示。

参考WEBページ)

在ロシア日本国大使館「ロシア概要 2007年5月」

4 製品

ロシアの製品などについて、インターネットから収集した記事、筆者の同僚のロシア人女性から聞き取った事柄を紹介します。

1. ジュース、清涼飲料など

ロシアでよく飲まれている商品をいくつか挙げます。

まず、ジュース（100%果汁）では、「わたしの家族(Моя семья)」「わたし(Я)」「お気に入りの庭(Любимый сад)」「ゴールド(Голд)」「活力(Тонус)」「元気(Добрый)」等の商品名のものが売られています。

炭酸飲料では、コカコーラ（コカコーラ、ファンタ、スプライト）、ペプシコーラはロシアでも製造販売されており、人気があります。ロシア産の商品では、「レモネード(Лимонад)」という名で、色々なメーカーで売られているフルーツ味（レモン風味だけでなく、梨、リンゴ、オレンジ風味もある）の炭酸飲料があります。

ペットボトル入りのアイスティー（紅茶・緑茶ともに人気）は、砂糖入り、蜂蜜入り、ストレートティーの3タイプがそろっているのが普通です。

乳製品も人気が高く、フランスに本社がある企業グループ「ダノン」の製品、「ダニシモ(Даниссимо)」というメーカーのヨーグルトがよく買われているようです。牛乳は色々な濃度のものがあり、「農村の小屋(Домик в деревне)」という乳製品のシリーズがあるとのこと

2. ミネラルウォーター

炭酸入りミネラルウォーター「ボルジョミ(Боржоми)」と炭酸なし「スヴィトイ・イストーチニク(Святой источник)」があります。Coca-Cola 社製の「Вон-Aqua」、Pepsi-Cola 社製の「Aqua Minerale」が多く売られています。500ミリリットル瓶から5リットル瓶まで様々な容量の物が市販されています。

3. ビール

国内で最大手のビール会社は「バルティカ社」(Балтика)です。サンクト=ペテルブルグとトゥーラに工場があります。この会社のビールは、ラベル番号によって種類が違います。

例えば、

2(двойка ドゥヴォイカ)：スヴェートラエ(светлое, ライト), アルコール度数は 4.7%

3(тройка トロイカ)：クラシーチェスコエ(классическое, クラシック), 4.8%

～中略～

8(восьмёрка ヴァシミョールカ)：プシェニーチナエ(пшеничное, 小麦), 7.0%

9(девятка チェヴァートカ)：クレープコエ(крепкое, ストロング), 8.0%

筆者の同僚のロシア人女性の意見では、ロシア女性の間で人気があるのは、口当たりの良い2番、男性の間では、あまりアルコール度数の高くない3番が売れ筋とのことでした。

4. クワス

『クワス(квас)とは、水、ライ麦と麦芽、少量の砂糖で作られた伝統的な飲み物です。口当たりが良く栄養価の高い飲み物で、1975年の国際見本市では、コカコーラよりも高く評価されました。』とロシアの食品関係の記事にあります。筆者はクワスを飲んだことがありません。甘党の人が好む清涼飲料ではないかと思えます。

クワスについて、筆者の同僚のロシア人に聞いてみました。クワスはソ連時代には人気があった飲み物のようです。当時は大変安価だったので子どももよく買ったそうです。また、家庭でも作られていたとのことでした。しかし、ペレストロイカ期に、人気は凋落しました。現在は再び人気が復活しているとのことでした。

現在、クワスは瓶入りで販売されていますが、夏季限定で、街頭やカフェでは(大きな容器から注いで)グラス売りもしています。

5. 昔ながらのお菓子

伝統的なロシア菓子として、プリーニク(пряник)があります。これは、スパイス入りの糖蜜菓子です。このお菓子の原型は、9世紀には早くも登場していました。それは、ライ麦粉とハチミツとイチゴ果汁を混ぜて焼いたもので、「ハチミツパン」と呼ばれていました。「プリーニク」と名付けられたのは11-12世紀頃です。この頃、このお菓子を作る時にインドや西アジアから持ち込まれたスパイスがたくさん使われるようになり、ハチミツでなくスパイスが含まれていることが、生地の特徴になりました。「プリーニク」とは、「大量のスパイスを使った物」という意味なのです。お菓子づくりの秘訣は代々受け継がれ、どの地方にも独自のレシピで焼き上げたプリーニクがあります。トゥーラ、ルジェフ、アルハンゲリスク、ヴァージマのプリーニクは特に有名です。

同僚のロシア人に「子どもの頃にプリーニクをよく食べましたか?」と聞いたところ、「チョコレートやフルーツを入れたプリーニクをよく食べた」とのことでした。

現在は、フルーツを詰めたプリーニクが、大小のサイズで市販されています。お茶やコーヒー、ジュース、ミルクのお供にプリーニクを食べる機会が多いです。家で食べられなかった朝食の代わりとして、買ってきたプリーニクを職場で食べる人たちもいます。

6. 家電製品

日本でも随分前から韓国製、中国製の家電製品が量販店の店頭には並び、ジャンルによっては日本メーカーの商品よりもよく売れています。価格が安くて買いやすいイメージが筆者にはあります。筆者が最近買った中国製の家電品は小さなDVDプレーヤーで、機能は十分、場所をとらない点も気に入っています。

さて、ロシアでは、どこのメーカーの家電製品が売れているのでしょうか。ウラジオス

トク在住のロシア人に聞いてみました。日本メーカーの家電製品（台湾、シンガポール等で製造されている）はたくさん売れています。また、韓国製品も人気があり、LG の家電、サムスンのパソコン、AV 機器がよく売られています。韓国製は中国製よりも少し高いのですが、価格でなく品質や機能で選ぶという人が増えているようです。

家電製品に限らず、特定の国の商品を「買ってはいけない」と思い込んでいる人はロシアにもいますか？と同僚に意地悪な質問をしてみました。彼女いわく、「品質が悪いからと言って中国産品を買わない人はいる。でも、ウラジオストクでは、例えば野菜や果物の 9 割が中国から輸入されていて、選択の余地はほとんどない」ということです。

いずれにせよ、ものが大量に出回る旬には地元の食材を買う「地産地消」が実現できませんが、そうではない時期には、他産地の食材に依存するという状況はほとんどの国で同じではないでしょうか。

7. ロシアのクルマ事情

『ロシアの今年 1～9 月の外国企業別新車販売台数で、トヨタ自動車の前年同期の 3 倍となる 1 万 6700 台を販売し、外国メーカーとしてトップとなったことが明らかになった。

ロシアの自動車需要はここ数年、好調に推移しており、外国メーカーでは低価格で故障の少ないトヨタが人気を集めている。2 位は GM 大宇自動車、3 位がフォード・モーターだった。日本メーカーでは 4 位に三菱自動車、8 位が日産自動車で、ヨーロッパメーカーがギリ貧状態だ。

トヨタは、2001 年に現地法人を立ち上げて販売を本格化させたばかりだが、2003 年の販売で外国メーカーとして早くもシェアトップとなる可能性が高い。』

これは新生銀行ホームページ (<http://www.shinseibank.com/>) より抜粋（文 ロシア東欧貿易会 坂口泉氏）した記事です。

筆者の元同僚（ウラジオストク在住）いわく、ウラジオストクでは「皆が日本車を買う」とのことであり、彼女の夫も日産のセダンを愛車にしているとのこと。また、別のロシア人女性にもクルマ事情をきいてみると、マイカーはトヨタハイエース、友人の家にはトヨタマーク II、ダイハツテリオス等があるなど、マイカーとして日本車は人気だとのこと。

また、ウラジオストクでは、韓国製のバスがたくさん走っているようです。

日本車のメリットは？という質問に対しては、「ロシア車と比べて快適で、乗り心地よく、軽快、種類もデザインもバラエティーがあり、美しい」とたくさんのほめ言葉をいただきました。ロシアの富裕層には、高価な SUV、ミニバン、スポーツタイプのクルマも売られているようです。

8. ロシアの買い物事情について～新生銀行ホームページより

ソ連時代は、スーパーマーケットのような形態の店舗は、首都のモスクワでもほとんど存在しませんでした。多くは、まずレジで商品の代金を払いレジで貰ったレシートと交換

で商品を受け取るという不便な方式の店がほとんどでした。「自由に商品を選んで品数が豊富なスーパーマーケットで買い物をしたい」というのが、当時のロシア庶民の夢だったと思います。

1990年代も半ばになった頃、この庶民の夢をかなえるスーパーマーケットが大都市部を中心に出現し始めました。最初は、中産階級をターゲットとした中規模な食品スーパーがほとんどでしたが、現在のモスクワなど大都市では小型のディスカウントショップ・安さと品数の豊富さを売り物にする超大型スーパー・高級スーパー等、様々な形態の店があります。中には24時間営業しているお店もあります。それらのお店の中でも、最近特に人気があるのは、郊外の外資系の超大型スーパーです。品数が豊富な上に、値段の安さが魅力なのです（店内では、ロシア語で「価格破壊」と書かれたノボリがあちこちに飾られています）。土日や祭日には、レジに1時間待ちぐらいの長蛇の行列ができます。

ソ連時代は全般的に品不足で、貴重な商品を求めてできる長い行列があちこちで見受けられましたが、資本主義の国になった今も行列とは縁が切れないようです。

9. ロシアの景気動向について～新生銀行ホームページより

ロシアは今非常に景気が良いので、小売市場の規模がどんどん大きくなっています。ロシアの国家統計局が発表した数字によれば、2002年には約1,200億米ドルだった市場規模が、2005年にはおよそ倍となる2,400億米ドル以上に達しました。この急激な伸びの一番の理由は、好景気により国民の所得が急増したことにあります。また、ロシアの人はあまり貯蓄する習慣がないと思われることも、消費の急激な伸びに貢献した可能性があります。

消費の中身を見てみると、食品の比率が非常に大きくなっています。2005年を例にとれば、小売販売高の総額の約半分である1,130億米ドルを食品が占めていました。このような状況ですから、ロシアの大手小売チェーン店はどこも好調で、前年比で30～40%以上売上げを伸ばしたところがほとんどです。中には家電量販店の「エルドラド」や携帯電話販売代理店の「エヴロセーチ」のように前年比100%以上の伸びを示したところもあります。

専門家の意見では、今後も小売市場の規模は拡大を続け2010年には約5,500億米ドルに達する見込みとのことです。そこには、大きなビジネスチャンスがありそうです。

参考WEBページ)

新生銀行ホームページ (<http://www.shinseibank.com/>) より「クルマ事情」、「買い物事情」及び「景気動向」の項目について抜粋

5 教育制度

ロシアの教育制度は、1993年までのソ連時代の教育制度とその後のロシア連邦の教育制度の2つに分けて話す必要があります。

1. 1993年までのソ連時代の教育制度

ソ連時代の教育は単一の教育制度で、義務教育は満7歳からの8年間でしたが、義務教育を行う学校の種類としては、基礎となる①4年制小学校をナチャーリナヤ・シコーラ(начальная школа)、②8年制準中学校をニポールナヤ・スレードニヤ・シコーラ(неполная средняя школа)、③10年制中学校をスレードニヤ・シコーラ(средняя школа)という3本建てでした。

日本に例えて言えば、6-3-3でなく、4-4-2の10年間になっていました。また、高等教育機関である5年制または6年制の大学もありました。

ソ連時代の70年間にわたって、大学も含めて教育は全て、第一に無償であったこと、第二に男女共学制であったこと、第三に全ての者に平等に門戸が開かれていたこと、などきわめて民主的な性格を備えていたと言えます。当時の一般教育といえば、学校で行う教育の内容を含めて表現したもので、学校の種類として別個のものではありませんでした。つまり、10年制中学校の場合を例にとれば、ここでは中等の普通教育と労働教育と総合技術教育を行う学校という意味です。8年制準中学校の場合も準中等普通教育を施す学校という意味なのです。

地域的に見ると、小学校は農村地帯に多く、8年制の準中学校と10年制の一般中学校は都会に多かったのです。小学校は第1~4学年なので、第4学年を終えた生徒は、最も近い8年制中学校あるいは、10年制中学校の第5学年に編入し、残りの義務年限を過ごすこととなります。第1~10学年を設置する学校は、義務教育は8年となっているので、必ずしも10学年まで進級する義務はないのですが、ほとんどの生徒は一般中学校を終了するまで在学するのが当時一般的でした。

小学校の段階では、日本と同じように、1人の教師が全教科を担当する全教科担任制です。第5学年以上は専門教科の教師制となり、国語、文学、数学、歴史、社会、自然、地理、生物、物理、化学、外国語などの教科別に専門の教師が指導に当たることとなります。授業科目について特色をひろくと、作業あるいは工作、天文、製図など日本にあまり見られない科目があること、第3学年以上で選択科目の時間が設けられていること、外国語は英語、ドイツ語、フランス語のいずれか1か国語を学習すること、などがあげられます。

また、義務教育の段階で、留年制度があることも特徴の一つです。生徒が成績不良の結果、留年となった場合は、再度同じ学年を受けなくてはなりません。

一般中学校は、第1～10学年の全ての学年を備えている学校のことで、都会を中心に設けられていて、第9～10学年の生徒に対して完全な中等教育を行うところでした。2年の課程を修了すると、大学を受験する資格が与えられました。

2. 1993年以降のロシア連邦の教育制度

現在のロシアでは、ソ連時代の教育制度が変革しつつある時期になっています。言い換えると、過渡期ということですから、教育制度は完全に出来上がったものではないということです。

日本と同じように、小、中、高等学校の3つの段階に分けられていますが、小学校は依然と同様に第1～4学年の4年間、中学校は第5～9学年の5年間の基本中学校に名前を変えて、高等学校は第10～11学年まで延びた2年間の完全な一般中学校となりました。

普通、小中高を通して、2年生、5年生、7年生、11年生…というふうに言います。9学年を終えて、進級試験があります。

新学期は、9月1日から始まります。一年は4学期にわかれていて、各学期の間には1週間程度の休みがあります。夏休みは、小学校、中学校、高等学校で多少異なりますが、学年が終わってから次の学年が始まるまでの2～3ヶ月間です。

小、中、高等学校の生徒たちの成績は、絶対評価で5段階評価されます。最も良いのが5点で、その次が4、3で、1と2は落第点です。実際には、1点などは付けられません。

これはどの学校でも同じ採点方法をとっています。生徒たちは毎学期通知表を渡されます。各学年の成績は、各学期の平均で付けられます。1科目でも落第点があると、留年しなくてはなりません。先生たちは生徒たちが授業に参加しているか、家で予習してきているか、質問に解答できたかななどを観察し、名簿に記入します。

これはテストの点数と併せて各学期の成績判定の材料となります。教師は生徒一人一人に「生徒日記」があり、そこにその日、生徒が質問に答え、先生がつけた評価の点数、それからその日の校内での生徒の行動などについてコメントを記入して生徒に渡します。親たちはこれに毎日目を通してサインしなければなりません。

学校教育のカリキュラムは全国で大抵の場合は統一されていて、かつては、生徒たちの制服は義務づけられていて全国共通でしたが今は自由です。

高等学校を卒業するときに試験があります。試験に合格した者には卒業証書を与えられ、卒業証書を持っている者が、希望する大学の入学試験を受ける権利があります。

ソ連崩壊までは単一の教育制度でしたが、近年では、二種類の学校の別が見られてきました。一つは文系科目を主とした一般中等学校のギムナージヤ(гимназия)で、もう一つは理系科目を主とした実科学校のリツエーイ(лицей)があります。

義務教育は9年間ですが、大学入試を目指す者は高校を卒業しなければならないため、中学校9年を終えた子どもたちは同じ校舎で更に2年間学んでから高校卒と認められます。

最近、義務教育11年制への移行措置の一環として、中等専門学校に属する職業・技術学校の教育年限を延長し、一般教育教科の水準を引き上げることが計画されています。

もともと、ソ連時代の学校は全て国営でした。今でも11年制の中学校での教育は無料であるとロシアの憲法に一応定まっています。しかし、都会の中学校、特に大都会のモスクワやサンクト=ペテルブルグなどでは、収入の高い家族の子どもたちを受け入れるエリート学校が現れてきました。こういった学校は学費が高く、金持ちの子ども以外は入学できません。毎学年度の授業料がまともでない限り、子どもたちは勉強ができないので、一般の子供は入学できないということになっています。これらの例にならって、一般の学校のいくつかで、特に選択科目の一部に対して費用を求める学校も見られます。そのような学校の数はまだ少ないですが、国営の学校と並んで私立のエリート学校がそれにあたります。

残念ながら、市場経済導入の影響で、国から教育機関向けの予算が少なくなったため、国営の学校の場合でも学校の運営資金の一部を生徒の親たちの負担に頼る学校の数が多くなっています。そのため、ソ連時代には全く考えられなかった、学校へ通わない子どもたちが増え、その数は2年前の統計では2百万にも達したと言われます。

11年間の教育を受けた生徒は、志望する上級学校に進みます。もちろん、本人の意志が基本ですが、先生が生徒の学力と照らし合わせてアドバイスします。ロシアでは日本と違って、大学入試期間は大体6月下旬から7月中旬までの間で、試験の日時が一定です。各学生は入試を2回しか受けられないので慎重に学校を選びます。

また、ロシアには金メダルの制度というものがあります。それは11年の卒業のとき、成績簿（評価表）が全部5点の生徒に贈られるものです。以前は、金メダルの優等生は試験なしで希望学校に入れましたが、今は改正されて、専門科目だけは試験を受けなければならなくなっています。

金メダルをもらうのは、一校で1人か2人位です。入試を2回しか受けられないのは不便だと思われるかもしれませんが、日本のようにいくつも受けるわけにはいきません。難しそうなところと、易しそうなところを選ぶか、または同じ学部で夜間部と通信教育部があるので、昼と夜の部を受ける人もいます。夜間部に入って、昼間に欠員が出来たら、転部するという方法もあります。浪人も、もちろんいます。二つとも落ちた人は、各大学の予備学部に入るか、意志の強い人は、自宅で来年に備えて勉強します。

6 住居

ロシア人が普通、どのような家に住んでいるのかを知るために、私の家のことからお話ししましょう。私の家にはよくお客様がみえます。例えば、この教科書『ТЕРЕМОК』に登場するポリーナとマユミを招くとしましょう。

- Здравствуйте! Все собрались: Полина, Маюми-сан.

- Я хочу пригласить вас в гости.

- Спасибо. С удовольствием!

「ポリーナとマユミさん、こんにちは。あなた達を家にお呼びしたいのですが。」

「はい、喜んで。」

私の家は、ウラジオストク市内の太平洋大通りに面していて、バス停に近いところにあります。9階建てのアパートで、出入り口は5カ所あります。私の家へは3番目の出入り口を使用し、玄関口の開閉はインターホーンを通じて行われます。

- Входите, пожалуйста.

「どうぞ、お入りください。」

出入り口のある1階の壁には郵便受けが設置されていて、郵便配達人がここへ郵便物や新聞を配達してくれます。アパートにはエレベーターが備えてあります。私の家は5階にあるので、エレベーターを使います。

さあ、5階に到着しました。床面積は広いものではなく、フロアーは4軒分の間取りです。階段の踊り場にはダストシューターがあり、さまざまなゴミをここに捨てるのです。ゴミは太い配管を下って、1階のダストコンテナに落ちていきます。清掃職員が毎日、ここからゴミを運び出してくれます。

- А вот налево моя квартира.

「そこの左手が、私のアパートですよ。」

私の両親は長い間、広々として、明るく、街の中心地にある、間取りが3部屋のアパートを探していて、とうとう該当物件を見つけられました。20年前であれば、ソビエト連邦から無償で部屋を受け取ることができたのですが、現在、部屋は各自で購入しなければいけません。しかも、住居費は絶えず値上がりしているのです。

- Проходите, пожалуйста.

「どうぞ、中へお入りください。」

2つの部屋の窓は北東に面していて、台所と私の部屋は南西向きになっています。寝室へつながる廊下は吹き抜けになっています。我が家の広い、四角い玄関は誰もが気に入っていて、ここで靴やコート類を脱ぐことができます。玄関に専用の下駄箱はありませんが、靴置きのある棚があります。

- Пожалуйста, раздевайтесь. Вот тапочки.

「さあ、コートを脱いで。スリッパをどうぞ。」

玄関ドアの右手には浴室とトイレがあります。浴室は水とお湯が出ますが、水気を流せるのはバスタブの中と、シャワー口だけで、床に水を漏らしてはいけません。浴室のドアの正面には大きな鏡があります。

奥は台所です。壁際にテーブル、冷蔵庫、レンジがあり、レンジの上方には通気孔があり、窓のそばには大きな食卓があります。私たちはこの快適な台所を気に入っています。ここで母が食事を作り、夕食の時や休日に、私たち家族は大きな食卓を囲み、食事をし、色々な会話をします。両親は仕事を持っていて、私は大学食堂で昼食をとるので、家族は外で昼食をとります。

両親は新居にモダンな家具を購入してくれました。居間のドアの左手には大型の美しいソファが置かれ、正面にはテレビとビデオデッキがあります。角には本棚があります。私たちは読書が大好きなので、ロシアの古典文学や現代作家の作品がたくさん並んでいます。

壁際には友人の画家の作品や家族の写真が掛けられています。

少し蒸し暑いので、小窓を開けることにしましょう。小窓とは、窓全体を開けなくても、窓の一部を開放できる仕掛けなのです。新しいアパートにはプラスチック製の窓が取り付けられています。私たちも2年前にガラスをプラスチックに取り替えました。窓枠には絹のカーテンをあしらえています。床にはふかふかの絨毯^{じゅうたん}を敷きました。家族は毎晩、ここで休息をとり、テレビを見るのが大好きなのです。

7 料理

ロシア料理というと、皆さんはどんなことを思い浮かべるでしょうか。

ボルシチやピロシキといったメニューを思い浮かべる人もいるでしょう。脂っこい料理ばかりじゃないかと考える人もいるかもしれません。フランス料理やイタリア料理などと比べてロシア料理はイメージを浮かべにくいものかと思います。オムレツやスパゲッティ、あるいは中華料理などと違い、日本の家庭の食卓にのぼることもほとんどないため、あまり馴染みがないものでしょう。

実際には、ボルシチはもともとウクライナの料理であって純粋なロシア料理ではありませんし、現代のロシア人たちは肉料理なども好みますが、元来のロシア料理にはあまり脂っこいものはありません。ただし、周囲を様々な民族と国で囲まれていたロシアが、他民族や他国の文化とともに様々な料理を吸収し、発展させていった歴史を考えると、これらの料理も含めてロシア料理を考えていく必要があるように思われます。ちょうど、現代の日本の食文化を考えると、カレーライスやラーメンを無視して考えることができないようにです。

1. ロシア料理の歴史

(1) 古い時代のロシアの食事情

さて、それでは古い古い時代のロシア人はどんなものを食べていたのでしょうか。

ロシアの歴史が始まるのは9世紀のキエフ・ルーシからです。この頃の人々は農耕と採集によって食べ物を手に入れていました。人々が食べていたのはライ麦から作る黒パンとシチー(щи)と呼ばれるキャベツ汁、カーシャ(каша)と呼ばれる雑穀粥、ブリヌイ(блины)というクレープのような食べ物でした。それに、農作物として収穫される様々な野菜や森で採集される鳥獣やキノコ、川や湖で捕れる魚などを食べていたのです。食生活は質素なものでした。

ロシアの宮廷が力をつけていき、豪華な食生活を発展させていったのは、モンゴルの支配から脱した15世紀後半からのことでした。16世紀にはイヴァン4世が「ツァーリ(皇帝)」と名乗り、強力な専制君主国家を築いていきます。それに伴って、質素な農民の料理とは対照的に贅沢な宮廷料理を発展させていきました。自分たちの絶対的な権力を見せつけるためにも、競い合うように豪華な食事を提供するようになっていきました。

また、この頃『ドモストロイ(家庭訓)』という本が書かれました。これは裕福な都市家庭を対象に書かれた家事の指南書のようなもので、この中に当時の都市部の食生活の様子を見ることができます。流通が今ほど発達していなかった当時、食糧の保存や有効利用が家事の大切な一部分であり、賢い主婦はやりくりや料理がうまくなければならないと書かれています。

宗教と生活との関わりも、ロシアの食文化に色濃い影響を与えました。ロシアで発

展した東方正教は食に関する戒律を厳しく定めています。それぞれの規則はかなり複雑ですが、肉や魚を食べてはいけない一定の時期があったり、それが終わった後のお祭りのような時期があったりと、これらの規則は年中行事のようになっていきました。時代が進むにつれて、それぞれの規則の解釈の仕方が変わったり、有名無実化していったりもしましたが、贅沢な食生活を送った経験のない農民たちの中には近代までこの規則を守って生活を送ってきた人たちも少なくなかったようです。

この頃までのロシア料理の調理法は、かまどで焼くか、壺に入れてじっくりと煮込むのがほとんどでした。これにはロシアの住宅事情が大きく関係しています。極寒の冬を過ごさねばならないロシアの住宅にはペーチ(печь)と呼ばれる大掛かりな暖房設備がありました。これは住宅の一角を占領するくらいの大きな暖炉で、暖房兼かまど兼床暖房式ベッドのようなものでした。ロシアの料理は、このペーチとともに発展したため、直火で炒めたりするよりも、ペーチの灰の中に材料を詰めた壺を入れておいて一晩煮込むような調理法が主流となっていったのです。

(2) ロシア料理の近代化

17世紀末、ピョートル大帝の時代になると、首都サンクト=ペテルブルクが建設され、一気に、半ば無理矢理に西欧化が推し進められました。これによってロシアの政治・経済・軍事ばかりではなく、都市の社会制度や文化の面まで西欧風に改められていったのです。

この頃になると、裕福な貴族たちは西欧から料理人を招いて雇うようになっていきます。貴族たちは、特に洗練された国として、こぞってフランスにかぶれていったのです。このため、貴族たちはフランス的な食生活に変わっていき、昔からのロシア的な生活を営んでいる農民たちや庶民たちの生活とは全く違うものになっていったのです。

貴族によってフランスから招かれた料理人たちにより、ロシア料理はより洗練されていき、使われる材料も多種多様になっていきました。現在のロシアの食生活に欠かすことのできないじゃがいもや乳製品などを使った料理もこの時代に発展していったものです。またザクースカ(закуска)と呼ばれるロシアの前菜のようなおつまみもフランス料理のオードブルの影響を受けて多彩なものになっていきました。さらに19世紀になると、贅沢な食事の振る舞われる場所が貴族の邸宅から都市部のレストランへと広がっていき、贅沢な食文化は近代化によって富を蓄えた都市部の商人たちにも広がっていきました。

ところで、ロシア料理はフランスから様々なものを導入して発展していきましたが、逆にロシア料理のしきたりがフランスに輸出された部分もあります。すべての料理をあらかじめテーブルの上に出しておくのではなく、前菜から順番に供していく「コース」スタイルの給仕は、実はフランス料理がオリジナルではなく、ロシアの給仕方法

から導入されたものなのです。ロシアがもともとどうしてこのような給仕方法をとっていたのか、誰がどのようにしてこの方法をフランス料理に持ち込んだのかなどの疑問にははっきりとした結論を出すことはできませんが、王宮貴族に招かれたフランス人シェフによって本国フランスに伝えられていったというのは本当のこのようです。

19世紀後半になると、ロシアでも鉄道建設が始まり、交通網の発達が更なるロシア料理の発展に寄与していきます。食材や調理法の交流が進み、広い国土を持ち多様な民族を抱えるロシアの食文化はますます発達し多様になっていきます。東アジアからシベリアに入ってきた餃子がペリメニ(пельмени)として伝わったり、極東からマスやイクラが食材として導入されたのも、発達した交通網があってこそのもなのです。

(3) ソ連から現代へ

時代とともに発達し多様化していったロシア料理の歴史に大きな打撃を与えたのは、ソビエト連邦の誕生でした。

流通が盛んになって充実していった都市部の家庭料理を衰退させていったのは、家庭からの「女性の解放」と大量製造によって無駄を省いていこうという「社会主義的経済原理」でした。政府は、労働者のための安価な大型食堂「台所工場」を次々に建設し、家庭での食事を取って代わるようになっていきました。家庭での贅沢な食事は「ブルジョワ的」で社会主義の理想に反するものだったのです。また家族を超えた集団で囲む食卓は社会共同体を実現する上での理想でもありました。この社会改革によってロシア人にとって食事は個々の娯楽ではなく、栄養補給のための集団で行われる作業のようなものになっていきました。

農村の強制的な集団化によって、収穫量は次第に減少し、また、重工業や軍需産業に力を入れた経済発展もあって、国民の生活は次第に軽視されていきます。食堂のメニューも経済原理から限定されたものとなっていき、食料品を買いに出かけても店には物がほとんどないといった食料不足を招くことになっていきます。国民たちはわずかなばかりの食糧を手に入れるためにいつでもどこでも行列を作り、そのために社会経済はますます停滞していくことになりました。

さて、ソビエト連邦が崩壊し、市場経済へと移行した現在のロシアの食事情は一体どうなっているのでしょうか。

現在、ソ連崩壊の頃に比べて経済は非常に安定したものとなっています。外国資本がたくさん導入され、アメリカのファーストフード店なども都心部に次々に進出しています。またロシア料理のファーストフードチェーンも展開されています。また、スーパーに行っても、長い列になって並ぶこともなく、世界各地の食材が陳列されています。経済格差がもたらした都市部の生活のゆとりはグルメブームをもたらし、大都市圏には世界各国料理のレストランが建ち並んでいます。しかし、食生活が豊かにな

っていく一方で、現在の日本と同じく、食文化の独自性が失われつつある面も見過ごすことはできません。

逆に、古いロシアへの懐古への動きもあります。これはソ連時代に断ち切られたロシア正教の伝統への復活の動きとともに、食習慣戒律の復活の動きに表れています。

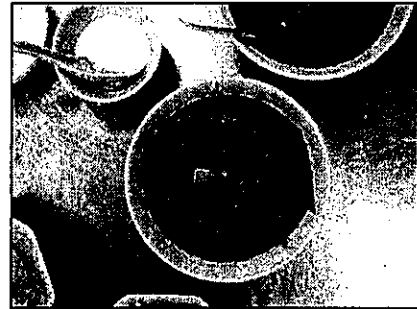
また、ダーチャ(дача)の普及もソビエト時代からの副産物として注目すべき点の一つです。ダーチャとは寝泊まりできる質素な小屋のついた都市近郊の家庭菜園のことで、多くの人々が都市の共同住宅に押し込められたソ連時代に急速に発展していきました。この家庭菜園の発達がソ連時代の食糧不足を何とか補ってきたのです。

現在は、週末になると郊外のダーチャで過ごすために都市を離れる人々の渋滞が起こることもあります。ロシアの都会の住民たちはこのダーチャで自然とふれあい、野菜やハーブを栽培して家庭に取り入れ、古き良き農村の国であるロシアを生きています。塩で味付けし、ハーブで風味を整えた、割と質素なロシア料理の原点が、このダーチャの生活の中に今も息づいているのです。

2. さまざまなロシア料理

(1) ボルシチ (борщ)

ボルシチはロシア料理を出す店であればどんな店にもあるほどポピュラーな料理ですが、もともとはウクライナ地方の料理です。また、その具材も様々で、これが正統のボルシチですというようなものはありません。ただし、ビーツ(свёкла)を材料に用いることとサワークリーム(сметана)で調味するところは共通しているようです。



ビーツとは赤い色をしたカブのような形の野菜で、甘い味がします。日本では、神奈川県や長野県の一部で栽培していますが、なかなか生のビーツを手に入れるのは難しいでしょう。しかし、缶詰めは比較的簡単に手に入れることができます。

ロシアでは様々な料理の調味にこのサワークリームが使われます。この後説明するシチーやカーシャ、ブリヌィ、ペリメニの調味にも使われ、さながら、日本の醤油のようなものです。

【調理法】

- ・肉とビーツを茹でて、ビーツは柔らかくなったら取り出し、皮をむく。
- ・ビーツを刻んで玉葱や人参などの野菜と一緒に炒め、トマトピューレを加える。
- ・鍋にじゃがいもやキャベツ、炒めた野菜を入れ、セロリやローリエなどの香草を加える。
- ・塩、胡椒、レモン汁で調味する。
- ・皿に盛りつけ、サワークリームを添える。

(2) シチー (щи)

シチーはロシアに昔からある、キャベツをベースにしたスープです。生のキャベツと発酵したキャベツを使う場合があり、発酵したキャベツを使うシチーは特に「酸っぱいシチー」と呼ばれます。

【調理法】

- ・キャベツを千切りにし、塩もみして水分を絞る。
- ・密閉容器にキャベツを入れ、常温で数日おいて発酵させる。
- ・鍋にビーフコンソメ、発酵キャベツの汁、トマトを入れ、煮込む。
- ・玉葱、人参などの刻んだ野菜を入れて煮込む。
- ・発酵キャベツ、ローリエなどの香草を入れ、煮込む。



(3) カーシャ (каша)

米や雑穀を材料に使ったロシア風のお粥です。特に蕎麦の実を引き割りにして水で炊いたものや、挽き割り小麦を牛乳で炊いてどろどろにしたものがポピュラーで、朝食として食べられたり、ボルシチなどの様々な料理の付け合わせとなったりします。日本ではお粥はたいてい塩で味付けしますが、カーシャにはバターを入れたり、サワークリームを入れたりして食べることも多いようです。ときには砂糖を入れた甘いカーシャも食べられます。シチーと並んで、古い時代からある代表的ロシア料理であり、カーシャという言葉を用いた慣用句もたくさんあるようです。

【調理法】

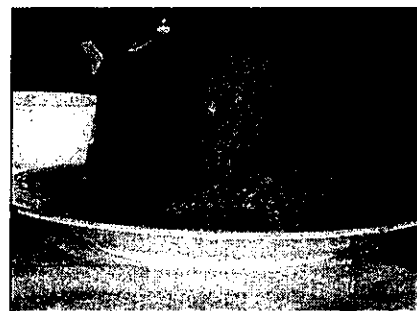
- ・引き割りの蕎麦（小麦）を洗い、ほんの少し塩を加えた水（牛乳）で煮込む。
- ・柔らかくなるまで水を足しながら煮込む。
- ・盛りつけてバターを添える。



(4) パン (хлеб)

パンもまたロシアの食卓には欠かせないものです。ロシアでは今でも大切なお客様をお迎えするときに、黒パンに塩を添えて歓迎の意を示す風習があります。

ロシアのパンは日本のパンと違い、ライ麦を原料に作られていて、しっかりと噛みごたえがあり、酸



味と独特の香りを持っています。日本人は、慣れないうちはあまりおいしくなく感じるかもしれませんが、ロシアのレストランに行くと必ず出てくることもあり、慣れるとおいしく感じるようになることでしょう。また、ロシアのお酒であるウォッカとの相性も良く、ロシア人たちは黒パンの匂いを嗅ぎながらウォッカを楽しみます。

(5) ピロシキ (пирожки)

ロシアのパイです。ロシア語でパイのことをピローグといますが、この小さなものがピロシキです。

ロシアのパイは種類が豊富で、具材も様々なものを使います。肉類や魚肉、ゆで卵を用いることもありますし、じゃがいもなどの野菜やカーシャを入れたりします。また、果肉を残して煮詰めたジャム(варенье)や果物を入れたデザート感覚のものもあります。また、伝統的なロシアのパイは、ペーチでじっくりと焼いて作られるもので、日本のパン屋で見かけるような揚げパンのようなピロシキはあまり一般的ではありません。



【調理法】

- ・人肌に温めた牛乳にイースト、砂糖を少しずつ加える。
- ・よくふるった強力粉、卵、バター、塩、砂糖を少しずつ加える。
- ・生地をよくこね、暖かな場所で発酵させる。
- ・生地が膨らんできたら、ガス抜きをする。
- ・具材となる挽肉、玉葱のみじん切りを炒め、塩、胡椒で味付けする。
- ・生地を伸ばして皮に具を包み、包み口をしっかりとめたあと、5分ほど寝かせる。
- ・180度のオーブンで焼き上げるか、170度の油でじっくり揚げる。

(6) ブリヌィ (блины)

ブリヌィはロシア風のクレープです。直径 15cm くらいで様々な具材やジャムと合わせて食べます。具材はキャビアやイクラなどの高級なものから、ニシンのマリネ、キノコの酢漬、玉葱のみじん切り、ゆで卵など多彩です。バターを塗ったり、サワークリームで味を付けたりします。この料理の歴史は古く、ロシアがまだキリスト教を受け入れる以前にも、既に宗教的な儀式に登場していたようです。単なるクレープというなかれ、ロシア人はこのブリヌィが焼けるときの食欲をそそる何とも言えぬ香りが大好きなのです。



普段から食卓に上る料理ですが、ブリヌィにはもう一つ重要な役割があります。それはマースレニツァ(謝肉祭、ロシア語の意はバター祭り)という祭りでの食卓の主

役になるということです。マースレニツァは2月〜3月頃、春をむかえる季節に行われます。ブリヌィはその丸い形から太陽のシンボルであり、これから暖かくなってくる季節の到来を象徴するものなのです。

【調理法】

- ・ボウルに牛乳、卵、ヨーグルトを入れてよく混ぜ、ふるった小麦粉を加え、塩を少し振る。
 - ・生地を10分ほど常温におき、やや発酵させる。
 - ・フライパンに薄く油を引き、クレープのように焼き上げる。
 - ・焼けたらバターを塗り、保温できる容器に重ねていく。
 - ・様々な具材やサワークリームを添える。
- ※イーストを使う場合には、2時間ほどかけてゆっくりと発酵させる。

(7) ペリメニ (пельмени)

ペリメニはロシア風餃子と考えてください。大抵は茹でて、水餃子のようにして食べます。調味にはバター、サワークリームなどを用います。ペリメニは特にシベリア地方で作られ、具材を皮に包んだあと、軒先につるして凍らせて保存携行食としていました。鍋があり、火さえ起こすことができればどこでも、周りの雪を溶かしてペリメニを茹でて食事にするのができたようです。

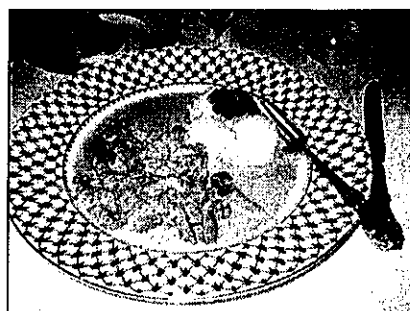


【調理法】

- ・ボウルに卵、溶かしバター、牛乳、塩を入れてよく混ぜ、ふるった小麦粉を加え、よく練る。
- ・生地を30分ほど寝かせて、馴染ませる。
- ・挽肉、玉葱のみじん切りを混ぜ、塩、胡椒で味付けする。
- ・生地を棒状に伸ばしたあと数センチごとに切り分け、麺棒で5cm位の皮を作る。
- ・皮に具材をつめ、形を整える。
- ・熱湯で茹で、サワークリームやバターを添える。

(8) ビーフストロガノフ (бефстроганов)

この料理の名前は16世紀〜19世紀にウラル地方に実在した豪商ストロガノフ家に由来しています。このストロガノフ伯爵がお抱えの料理人に命じて作らせたのがこの料理です。実際にいつの時代に作られたのかということになると諸説がありはっきりしたことはわかりませんが、ストロガノフ家発信のロシアで最



も有名な肉料理であることは間違いありません。

【調理法】

- ・ スライスした牛肉をバターで炒める。
- ・ スライスした玉葱とマッシュルームを加える。
- ・ 乾煎りした小麦粉を加え、サワークリーム、トマトピューレとともに煮込む。
- ・ 塩、胡椒で味を整える。

写真提供)

ボルシチ、ペリメニ・・・札幌市

シチー・・・サロン・ド・キュージュー 荻野恭子(『家庭で作れるロシア料理』河出書房新社)

ブリヌィ、ビーフストロガノフ・・・専修学校 ロシア極東大函館校

上記以外の写真は北海道ロシア語教育推進連絡協議会による。

参考文献)

『世界の食文化㊦ ロシア』(沼野充義・沼野恭子著、2006、農山漁村文化協会)

『ロシア料理・レシピとときたり ユーラシア・ブックレット No. 8』(荒木瑩子著、2000、東洋書店)